

能登半島豪雨被災地調査

石川県輪島市及び珠洲市



令和6年10月7日

参議院議員 足立敏之

10月7日（月）、9月20日からの豪雨により甚大な被害を受けた輪島市、珠洲市の被災現場に伺いました。その際、石川県測量設計業協会の新家会長、磯野副会長にご同行をいただきました。本報告は、その概要をとりまとめたものです。

輪島市

金沢市内を出発し、のと里山海道から能越自動車道で輪島市に向かいました。両自動車道とも震災直後は寸断されたり片側通行だったのが全線通行可能となっており、今回は三井ICまで2時間程度で到着することができました。

最初に、鳳輪建設業協会の二俣副会長、輪島建設協同組合の竹林理事長、刀禰副理事長、測量設計業協会の原さん、島越さん、石垣さん等に合流いただき、土砂災害で被災した河原田川の直轄権限代行による緊急復旧工事の現場に伺い、現場を担当している鹿島建設の方からお話を伺う事が出来ました。



続いて、宮下県議会議員、宮下建設の宮下社長に合流いただき、震災で被災した中屋トンネル北側の今回の水害による被災箇所に向かい、トンネルの復旧工事にあたっている安藤ハザマの伊藤土木部長からご説明をいただきました。土砂崩れによりトンネルに至る道路が至るところで寸断されており、トンネルの坑口の2km手前では道路が完全に崩落してしまっており、坑口まで行くことはできませんでした。なお、この現場は今回の豪雨災害で安藤ハザマの現場事務所長が土砂崩れに巻き込まれ、犠牲になられた現場です。心からご冥福をお祈り申し上げます。



中屋トンネル北側の道路（右側がトンネル坑口方向）

次に、輪島市久手川町の塚田川の氾濫現場に伺いました。「土砂洪水氾濫」という土砂や洪水、流木の大氾濫により谷全体が濁流に見舞われ、住宅も基礎だけが残っているような状態で、大変悲惨な状況でした。この現場は女子中学生が流され犠牲になられたところです。慎んでお悔やみ申し上げます。

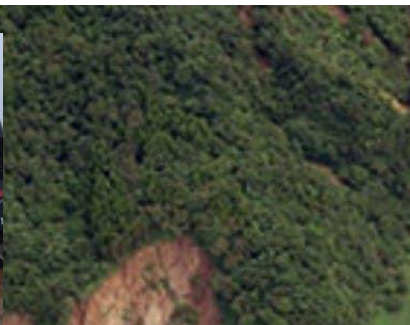


国際航業株式会社
(C) 国際航業株式会社・株式会社バスコ

塚田川周辺の状況

続いて、能登半島の外浦の沿岸部を走る国道249号沿いで、地震により隆起して現れた岩盤を生かし、大型土のうと盛り土で2車線の仮設迂回路を整備している、輪島市野田町の「白米千枚田」の近くの現場に伺いました。施工は清水建設です。

この付近も山腹崩壊で被災しているため、仮設迂回路をさらに沖出しして盛土を行い再整備していました。なお、使用されてる大型土のうは、5,200袋だそうです。



次に、国道249号の輪島市町野町曾々木側の八世乃洞門新トンネルの被災現場に伺いました。輪島市町野町曾々木と珠洲市真浦町を結ぶトンネルですが、土砂崩落のため、現在通行止めになっています。現地で刀根建設の栗倉社長や、近くの住民の皆さんから大規模な土砂崩壊についてお話を伺うことができました。



続いて、輪島市町野町の町野川合流点付近の支川鈴屋川の氾濫現場に伺いました。大量の流木が橋に引っかかって大規模な氾濫が発生したとのことでした。流木はすでに処理されていましたが、浸水被害の爪痕はしっかり残っていました。



珠洲市

次に、珠洲市に伺いました。

宝立町交差点付近で泉谷珠洲市長に合流いただき、珠洲建設業協会の明星会長と大濱専務、測量設計業協会の武田さん、沖本さんにもご同行いただき、大雨による増水により護岸が洗屈され、川沿いの新しい家屋が川に倒れ込んでいる若山川の現場に伺いました。テレビでも何度も紹介されている現場ですが、川幅が大きく広がっていることに驚きました。



続いて、1月の地震で孤立状態となっていた珠洲市大谷地区に伺いました。大谷トンネルや鳥川橋は引き続き通行止めで、迂回路を經由して、土砂や洪水、流木等により甚大な被害を受けている現場に伺いました。ここでも、直轄権限代行による復旧が必要と強く感じました。

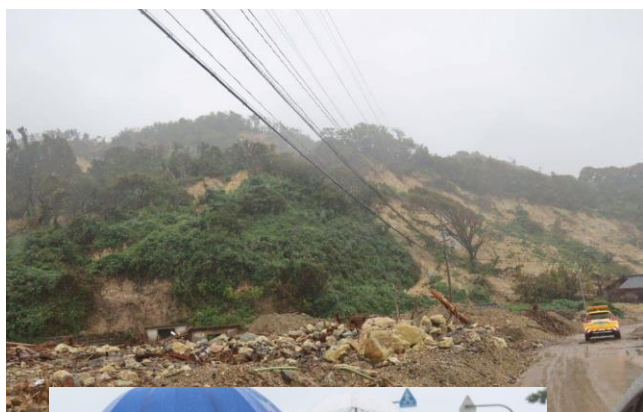


国際航業株式会社

(C) 国際航業株式会社・株式会社バスコ

大谷川周辺の状況

さらに、外浦沿いの国道249号を西に向け輪島方面に進みましたが、海岸沿いに大規模な崩壊がいたるところで発生しており、珠州市と輪島市を結ぶ国道の区間の復旧にはかなり時間を要するよう感じました。



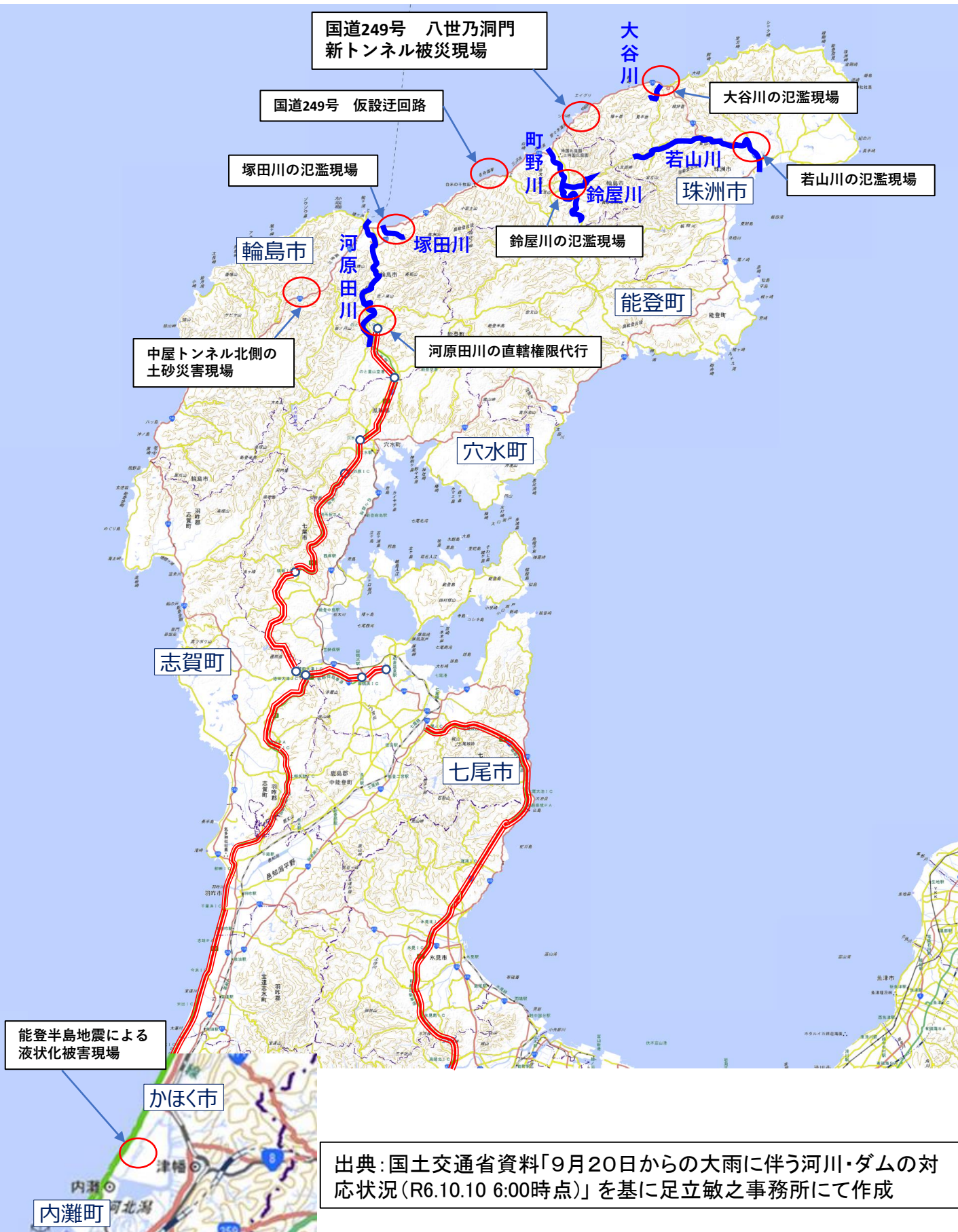
今回の被災地調査により、地球温暖化の影響で激甚化、頻発化する災害に対しては、市町村や県の対応力には限界があり、高度な技術力や大規模機械力を有する国の権限代行事業を活用することが重要で、それに必要な防災・減災、国土強靱化事業やインフラ整備の予算の確保が必要であると痛感しました。まさに、「国土強靱化待ったなし」と強く実感しました。

内灘町、かほく市

能登半島豪雨災害調査に先立ち、10月6日(日)、本年1月の能登半島地震を起因とする液状化により被災した内灘町とかほく市の復旧・復興状況の視察に伺いました。現地は、壊れたままの住宅が目立ち、人影も少なく、復旧・復興はほとんど進んでおらず、時が止まったような状態でした。なお、大崎地区の榊原神社だけは公費解体されており、更地になっていました。鎮守の社の復興を願う区長や神社総代など地元関係者との協議を踏まえ、新宮を再建されるそうです。



視察箇所



出典:国土交通省資料「9月20日からの大雨に伴う河川・ダムへの対応状況(R6.10.10 6:00時点)」を基に足立敏之事務所にて作成